

2023年3月期決算説明会 主な質疑応答(要旨)

2022年5月26日

株式会社アルプス物流

5月22日(月)の決算説明会はオンライン形式にて実施いたしました。質問と当社説明は下記の通りです。

(電子部品物流の事業環境について)

Q: 国・地域での濃淡はあるか?

A: 電子部品の主要貨物は自動車関連、スマホ関連。自動車関連の荷動きは堅調であり地域としては、北米、東南アジア、日本で比較的好調。一方、スマホ、PC 関連は回復遅れており、中国は少し厳しいと見ている。

Q: 半導体不足については解消しているとみているか?

A: 当社の顧客の情報から把握している限りだが、車載関連の半導体不足については昨年のような工場閉鎖等はなく、緩和してきていると聞いている。民生関連は一部ひっ迫しているものもあるが、余剰気味のものが増えてきたと聞いている。当社の貨物量についても概ね半導体の生産・販売動向に比例して動いている。

Q: 電子部品物流の今年度の業績見通しを厳しく見ているようだが、その理由は何か?

A: コロナ禍で国際輸送の混乱があったが、正常化に伴い、航空便による緊急輸送が減少している。航空から海上へ移っていること、また貨物量が減り混載の利益が落ち込むことなど、複数の要因があり利益は減少すると見ている。

Q: 当社決算への為替の影響はどう見ているか?レートが1円動いたらどれくらい営業利益に影響するか? 足元円安に振れているが、業績は良くなると考えていいのではないか。

A: 当社において、為替の影響が大きく出るのは人民元およびUSドル。レートは人民元=18.5円、USドル=130円で見込んでいる。人民元のレートでいうと、年間で約1億円の影響となる。予想レートは様々な銀行の予想を参考にしてはいるが、現状では大きな影響が出るとは想定していない。

(新規ビジネスの拡販について)

Q: 新規ビジネスの拡大とは具体的にはどのようなことか?

A: 電子部品物流事業については、共同保管・共同集配の電子部品物流プラットフォームを発展させ、車載、産業機器、さらに医療機器へ広げている。特に車載関連では Tier 1、Tier2 が中心となる。また、調達物流にも注力していく。

消費物流事業においては生協の宅配に加え、雑貨や日用品を扱う通販 EC 物流、医薬品の物流に注力している。

医療機器・医薬品は比較的近いマーケットであり、両社で連携して取り組む。

Q: 近年、九州における半導体関連投資が活発だが、当社の取り組み・考え方を教えてほしい。

A: 当社はアルプスアルパインの子会社として事業開始し、2004年にTDK物流と合併を行った。どちらも拠点は東日本がメインの会社であり、当社も東日本を中心に展開してきたことから西日本のネットワークはまだ十分でない。九州については、福岡と鹿児島に既に拠点があるが、これに加えて昨年度から熊本県のビジネスを増やしており、将来的な拠点化も考えている。

(その他)

Q: 2024年問題への対応状況を教えてほしい。

A: 「時間外労働の上限規制」について、当社のドライバーについての対策は完了している。業務を委託しているパートナー企業とは打合せを重ね、概ね90%の対策が完了しており、当上期中には完了を予定している。ドライバーの増員も一部あるが、輸送ルートの見直しを行うことで対策を行っている。価格転嫁については今後お客様と相談していく。

以上